
日本人中医診療記

その 10

天津中医薬大学 柴山周乃

今年の春節休暇は例年より長く、4週間ありました。昨年の秋以来の日中関係悪化、そしてPM2.5問題もあり、正直かなりストレスがたまっていましたので、学長の許可を得て早めに帰国しました。この冬の日本は思った以上に寒かったですが、空気のきれいな空のもとで1カ月ほど充実した日々を過ごすことができました。

日本滞在中、連日、テレビや新聞でPM2.5について報道されていましたが、その様子は1月に天津で経験した状況よりひどく、かなり心配しながら2月23日にこちらへ戻りました。天津の視界はそれほど悪くありませんが、PM2.5の被害はやはり深刻です。在中日本国大使館から、いつも大気汚染に関する新しい情報、そして注意喚起のメールが入ってきますので、とても助かっています。さる3月13日に北京で、中国日本商会、北京日本人会、在中日本国大使館共催により、虎ノ門病院・呼吸器科の先生を招き「大気汚染と呼吸器疾患」の講演会が行われました。残念ながら出席できませんでしたが、その講演会で使われたPDF資料が大使館のホームページからダウンロードでき、かなり充実した内容ですので、しっかり勉強したいと思います。

また、最近では、パソコンで天津各地域のPM2.5の状況がチェックできます。PM2.5濃度および大気質指数(AQI: Air Quality Index)、そして汚染状況がその指数にもとづき優・良・軽度汚染・中度汚染・重度汚染・嚴重汚染の6つのランクで表示され、健康影響や健康アドバイスとともに確認できます。ちなみに、3月10日から17日までの間、優2日、良2日、軽度汚染1日、中度汚染1日、重度汚染2日という、ちょっと信じたくない状況でした。せき喘息の持病もありますので、十分に気をつけて過ごしたいと思います。

学長は心・脳血管疾患が専門ですので、患者さまはほとんどが高齢者です。高齢者の患者さまのなかで、帯状疱疹を発症した例をこ

れまでいくつか見てきました。「带状疱疹」のおもな原因の1つには、体の免疫力や抵抗力が弱まっていることが考えられています。带状疱疹が高齢者に多く見られる理由は、加齢とともに体力や免疫力、自然治癒力が衰えてくるからです。じつは、私も天津で、2004年、2009年と、2度も带状疱疹を発症してしまいました。自分自身、身をもって体験しましたが、患部の疼痛、ピリピリとした電気が走るような不快感、そして皮膚の違和感は、とてもつらいものです。

西医では、通常、抗ウイルス剤、抗炎症鎮痛剤、ときには神経ブロックを使い治療が行われています。中医では、带状疱疹は「蛇串瘡」と呼ばれ、早くも清代の『医宗金鑑』のなかに、「纏腰火丹蛇串名、干湿紅黃似珠形、……」の記載があります。带状疱疹の中医治療には長い歴史があり、臨床でも高い効果を得ています。私は1度目は中医治療のみで、2度目は中西医統合で治療しました。今回は带状疱疹の中医弁証論治、そしてケース・レポートとして、私が大学附属病院の2人の老中医から受けた弁証論治をご紹介します。

一 中医弁証論治*

1. **病因病機**：蛇串瘡は、おもに、正虚体弱、七情の内傷、五臓の化火、過労などの状態のときに、毒邪を感受あるいは毒邪の内蘊などが原因で、肝経火盛・湿熱内鬱・気滯血瘀の証が現れる。
2. **治則**：主要な治則は清熱利湿・行気止痛である。初期は清熱利湿を主に、後期は活血通絡止痛を主に治療する。体力虚



3月20日午後3時・
青空でもPM2.5は軽度汚染



季節はずれの雪・3月20日午前10時・
PM2.5大気汚染は良・モデルは4年生学生

弱者には扶正祛邪と通絡止痛を併用し治療する。

3. **弁証論治**：中医皮膚病学の弁証理論にもとづき，蛇串瘡の初期は熱・毒・湿の盛衰により肝經鬱熱型・脾虚湿蘊型に分けて弁証する。後期は，湿熱の邪氣は消失するものの，局部の疼痛はまだ存在し，氣滯血瘀型である。各患者に対し弁証を行い，各証型の処方を加減し治療を行う。

(1) 内治法

①肝經鬱熱証

症状：患部の皮膚は鮮紅色・灼けつくように熱く刺痛・疱疹の表面は張りがある・口苦咽乾・心煩易怒・大便乾燥あるいは小便黄・舌質紅・苔薄黄あるいは黄厚・脈弦滑数。

治則：清泄肝火・解毒止痛

方剂：竜胆瀉肝湯に紫草・板藍根・延胡索などを加味

加減：頭面部に発症したものには牛蒡子・野菊花を加味，血疱のあるものには水牛角粉・牡丹皮，疼痛の著しいものには製乳香・製没薬を加味する。

②脾虚湿蘊証

症状：患部の皮膚は淡色・疼痛は目立たない・疱疹の表面は張りが
ない・口渇なし・少食・腹張・ときに大便溏・舌質淡あるいは
正常・苔白あるいは白膩・脈沈緩あるいは滑。

治則：健脾利湿・解毒止痛

方剂：除湿胃苓湯の加減

加減：下肢に発症したものには牛膝・黄柏，疱疹が大きいたくさん
できているものには土茯苓・草薢・車前草を加味する。

③氣滯血瘀証

症状：患部の皮膚の疱疹が軽減あるいは消失したあとも痛みが残
る・患部付近に放射痛・じっとしてられない耐えられない
痛み・重症者は数カ月またはそれ以上痛みが持続する・舌質
黯・苔白・脈弦細。

治則：理氣活血・通絡止痛

方剂：柴胡疏肝散と桃紅四物湯の加減

加減：心煩・失眠者には珍珠母・牡蛎・山梔子・酸棗仁，疼痛の激
しいものには延胡索・製乳香・製没薬・蜈蚣などを加味する。

(2) 針刺法

取穴：内関・陽陵泉・足三里

二 ケース・レポート

Case 1：2004.6.24（皮膚科老中医の弁証論治）

初診時現歴：学士論文発表・卒業試験を終え、疲れがピークに達していた。6月22日から連日、腹痛を伴わない下痢。24日、右腰部にピリピリと痛みを感じ、疱疹が数珠つなぎ（長さ3cmほど）にできた。疱疹のまわりの皮膚は広範囲にわたり淡紅色。食欲不振、失眠、大便溏、小便調、舌質淡、苔白膩、脈滑細。

症候分析：睡眠不足・慢性疲労・心労により脾虚。脾が健運を失い、湿濁の内鬱が生じ、化熱し湿熱が内蘊し、そこに毒邪を感受し湿熱火毒が皮膚に蘊積し帯状疱疹が現れた。脾虚により運化機能が損なわれ、大便溏・食欲不振の症状が現れた。湿熱火毒が心神を上擾し失眠。舌質淡・苔白膩・脈滑細は脾虚湿蘊の象である。

弁証：脾虚湿蘊証

治法：清熱解毒・化湿健脾・活血止痛

処方：馬齒莧 30 g、大青葉 12 g、板藍根 15 g、生薏苡仁 30 g、白朮 10 g、白扁豆 15 g、延胡索 10 g、川楝子 10 g、杜仲 6 g、紅花 6 g、赤芍 10 g、甘草 3 g。4劑、水煎、1日2回温服。

処方解釈：馬齒莧—清熱解毒・涼血・止痛、大青葉・板藍根—清熱解毒、生薏苡仁・白朮・白扁豆—滲湿・健脾、延胡索・川楝子—活血・行氣・止痛、杜仲—補中、紅花—活血通經・止痛、赤芍—清熱涼血・活血止痛、甘草—清熱解毒・補脾益氣・緩急止痛・緩和薬性。

外治：地榆油—疱疹のできている部位に塗布。金黃膏（天花粉・姜黄・白芷・大黄・黄柏等）—痛みがあり、疱疹のできていない部位に塗布。（ともに天津中医薬大学第一附属病院製剤）



姜黄

経過：下痢は1剤服用後すぐにおさまり，患部の疼痛と疱疹も2剤服用後，顕著に改善された。第2診処方では，根治のため，原方に補気健脾の太子参15gと，体内にくすぶる熱を取り除き失眠を治療するため蓮子心3gを加味。7剤服用後には完治し，帯状疱疹後の神経痛もなかった。

Case 2：2009.10.11（内分泌科老中医の弁証論治）

初診時現歴：博士課程2年。慢性睡眠不足のうえ，同年4月に家族に不幸があり，心身とも過度に疲労していた。10月9日夜半，頭頂部に激痛を感じ，鎮痛剤服用後も疼痛は緩和されなかった。翌朝，顔面右側と頭皮にピリピリと電気が走るような痛みを感じた。額右側が髪の毛の生えぎわまで鮮紅色，患部は熱く，小さな疱疹ができた。まばたきするたびに顔面右側に激痛を感じた。食欲不振，悪心，失眠，二便調，舌質紅，苔薄黄，脈弦。初診前日の10日，International SOS天津クリニックで診察を受け，アシクロビル® 200mg×7日とメチコバル錠® 0.5mg×30日を処方してもらい服用開始した。

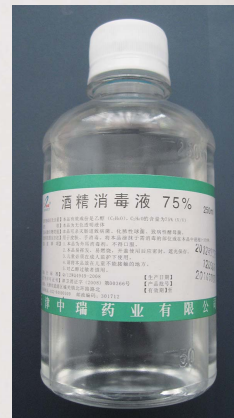
症候分析：思慮・悲哀・憂愁など情志の変調により，肝の疏泄が失調し，肝気鬱結となった。それが長引き化火し，肝経火毒蘊積となり，そこに風邪が混じり上行し，頭・面部に帯状疱疹が出た。肝の疏泄の失調により，脾の運化機能が損なわれ，食欲不振・悪心の症状が現れた。肝気鬱結が長引き化火し，それにより気火が上逆し失眠・舌質紅・苔薄黄・脈弦などの症状が見られる。

弁証：肝経鬱熱証

治法：清熱解毒・疏散風熱・通経止痛

処方：姜黄30g，升麻15g，葛根30g，当帰20g，白芷15g，金銀花30g，連翹20g，虎杖30g，板藍根20g，沢瀉30g，栝楼皮20g，白蒺藜30g，紅花10g，香附20g，延胡索30g，赤芍20g。7剤，水煎，1日2回温服。

処方解釈：姜黄—活血行気・通経止痛，升麻—解表透疹・清熱解毒，葛根—解肌退熱・透疹，当帰—活血止痛（以



医療用アルコール

上4味の配合は老中医が帯状疱疹抗ウイルスとして使用する薬対), 白芷一祛風止痛, 金銀花・連翹一清熱解毒・疏散風熱, 虎杖一清熱解毒・散瘀止痛, 板藍根一清熱解毒・涼血, 沢瀉一滲湿・泄熱, 栝楼皮一清熱散結, 白蒺藜一平肝明目, 紅花一活血通經・止痛, 香附一理氣止痛, 延胡索一活血・理氣・止痛, 赤芍一清熱涼血・活血止痛。

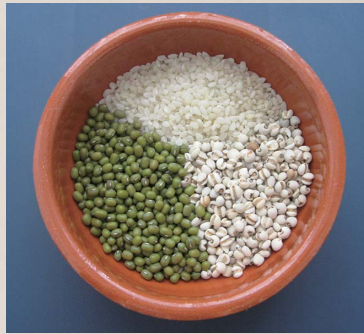
外治: 姜黄 120 g を医療用アルコール (こちらでは酒精 75%) 500mL に 24 時間浸し, こした薬液を 1 日数回, 患部とそのまわりに塗布。

経過: 7 剤服用後, 疼痛と疱疹はかなり改善された。しかし, まばたきするたび右目のまわりに走る不快な痛みは残った。第 2 診処方では, 原方に搜風通絡止痛力の強い全蝎 5 g と, 祛外風・散風熱・止痛作用のある僵蚕 15 g を加味。7 剤服用後ほぼ完治したが, 念のためさらに 7 剤服用し治療は終了した。

体得: 帯状疱疹の中医治療には, 清熱解毒剤は欠かせない。ただし, 初・中期には, 湿邪と熱邪の重・軽を見極める必要がある。熱邪が重いものには, 清熱解毒剤の量を多めにし, 湿邪が重いものには健脾利湿剤を多めに処方する。熱重湿軽のものに祛湿剤を過度に使用すると, 往々にして陰液を損傷する。また, 湿重熱軽のものに清熱解毒剤を過分に使用すると, 脾胃を損傷し祛湿にも影響が及び, 結果, 病状を長引かせる。帯状疱疹は, ウイルス感染症の一種で, それぞれ病状も異なる。軽症者には, 中医単独治療を行い, 重症者あるいは疱疹が眼部など要注意部位に現れた場合は, 必ず中西医を併用し治療する。さらに, 帯状疱疹治療は, 必ず内治法と外治法を併用して行う。内服薬は本を治し, 外用薬は標を治し, 併用し治療することにより, 経過を明らかに短縮させ, また患者の苦痛を緩和させることができる。

帯状疱疹は一度かかったら再発はないと思っていましたが, 5 年後に運悪く再度発症してしまいました。2 度目の患部は頭部・額で, 言葉では言い表すことができないような疼痛と皮膚に違和感があり, かなり苦しみました。2 度とも発症してすぐに治療したおかげで, 帯状疱疹後の神経痛もありませんでした。

治療中は, 食療も行いました。張伯礼学長が, 帯状疱疹の患者さまに必ずアドバイスする食療, 緑豆薏米粥 (緑豆はと麦粥) です。



緑豆，はと麦，稲米



緑豆はと麦粥

緑豆—清熱解毒，薏苡仁—滲湿・健脾（現代薬理研究により，さらに清熱・鎮痛・鎮静作用があることもわかっています），稲米—健脾養胃・聡耳明目・益精強志。緑豆 1/3・薏苡仁（はと麦）1/3・稲米 1/3（1：1：1の割合）を洗い鍋に入れて水を加え，40分コトコト煮れば，でき上がりです。帯状疱疹のほか，湿疹・にきび・更年期障害疾患などにも効果があります。ただ，緑豆の薬性は寒ですので，冬場は緑豆に替え，薬性が平の赤小豆を使うことをお勧めします。

春分の日を待たずして，東京にはすでに桜の開花宣言が出たと聞きました。今ごろは，お花屋さんの店先も，パステルカラーの花でいっぱいだと思います。日本はしばらく美しい季節ですね。今年は花粉症に加え，こちらからのPM2.5と黄砂の影響もあると聞いています。春のうらかな季節，皆さまお体を大切にお過ごしくださいませ。



プロフィール

柴山周乃（しばやま・ちかの）

愛知県名古屋出身

1996年 日本航空株式会社・国際客室乗員部退社

1999年 天津中医学院（現天津中医薬大学）本科入学

2006年 中華人民共和国・中医医師資格取得

2010年7月 天津中医薬大学・中医内科学博士課程卒業

修士課程は天津中医薬大学第二付属病院・循環器内科杜武勳教授に師事，「糖尿病性心疾患の中医病機メカニズム及び臨床治療」を研究。

博士課程は天津中医薬大学・張伯礼学長に師事，「中医および漢方医学による心疾患・脳血管疾患治療」を研究。

現在は，引き続き張伯礼学長に師事し外来で診察および中国人学生の講義を担当。

文献

* 李日慶主編：中医外科学，中国中医薬出版社，164-166，2006